



## 芽室町コミュニティ・スクール（CS）通信

～みんなで創り みんなでつなぐ ずっと輝くまち めむろ～

令和元年 7月5日

かなえよう

No.7

芽室町教育委員会

### 1 芽室西小学校の体力測定～コミュニティ・スクールの推進に向けた新たな取組

3日、芽室西小学校の4～6年生が、コミュニティ・スクールの一環として、北海道十勝スカイアースの選手、西中学校教諭、帯広大谷短期大学准教授、町教委職員のサポートを受け、町総体で6種目の体力測定を行いました。西小学校教諭の子供たちの意欲を高める的確な指示・指導をはじめ、スカイアースの選手等の模範演技や励ましにより、子供たちの頑張る姿が輝いていました。西小のニーズを受け、「すべては子供たちのために」の思いを、西小と関係者が共有でき、有意義な活動となりました。子供たちが、指導やお手伝いをしてくれた関係者に「ありがとう」の思いを伝える姿もたいへん良かったです。スカイアースの松尾主将は、「子供たちの記録が伸びていることを期待している。子供たちとハイタッチをしながら達成感を得ることができた。今後も様々な協力をしていきたい。」と語ってくれました。



しにより、子供たちの頑張る姿が輝いていました。西小のニーズを受け、「すべては子供たちのために」の思いを、西小と関係者が共有でき、有意義な活動となりました。子供たちが、指導やお手伝いをしてくれた関係者に「ありがとう」の思いを伝える姿もたいへん良かったです。スカイアースの松尾主将は、「子供たちの記録が伸びていることを期待している。子供たちとハイタッチをしながら達成感を得ることができた。今後も様々な協力をしていきたい。」と語ってくれました。

### 2 「小1プロブレム」「中1ギャップ」をみんなで乗り越えよう！

～CSを通して、社会総がかりでその解消に向けて取り組みたい！～

#### <小1プロブレム>とは…

■小学校に入学した1年生が、新しい環境になじめず、先生の話や話を聞かない、授業中座ってられない、集団行動ができない、などという状態が継続する問題。その原因は、①幼児教育では、遊びを通じた学びですが、小学校では、時間割に基づき、席に座って先生の話や話を聞いて学ぶ、座学形式の教育が中心になるという、教育制度に起因すること、②家庭でのしつけが不十分で、自分をコントロールできずに自由に行動してしまうこと、などが考えられます。



■文部科学省は、平成23年より、小1の子供たちが学校に早くなじめるよう、「スタートカリキュラム」の導入を全小学校に求めており、本町の各小学校もスタートカリキュラムを作成し、幼稚園、保育所での学びを小学校につなげる工夫をしています。

#### <中1ギャップ>とは…

■小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で起きる、不登校等の生徒指導上の諸問題。

■「ギャップ」という表現により、小6から中1に至る過程に大きな「壁」や「ハードル」が存在し、それが問題を引き起こしているかのようなイメージを抱きがちですが、家庭や地域の教育力の低下をはじめ、問題が顕在化するのは中学校段階からとしても、実は小学校段階から問題が始まっている場合も少なくないようです。



■小1プロブレムも中1ギャップも全員に起きるわけではないことから、ほとんどは親の接し方、しつけに起因すると指摘する教育関係者もいます。

■小学校から中学校への連続性に着目し、小中の教職員、保護者が共に「15の春に責任をもつ」中で、小中連携教育を推進していくことが必要です。

#### <言葉のビタミンプラス>

学びの楽しさを実感できる人は、一生楽しめる。なぜなら、学びに終わりはないから。